資料６

# ヒアリング報告書

## １．NPO 法人まなびと 理事長 中山　迅一氏

【日時】令和３年 10 月８日　13:00～15:00
【場所】まなびと北野基地
【ヒアリング主旨】
・NPO 法人まなびとについて
・若い世代を活動に巻き込む方法について

【要旨】
１．NPO 法人まなびとについて
・活動のスタートは、学び辛さを抱えている人や塾に行きづらい人、学校に行きづらい人を、地域の力で何か支援ができないかと考えたことであり、生きる目的や何かをしたいという気持ちをどう育てるのか、勉強ができる、できないに関係なく、自分本位で、自分のやりたいことができる場を提供している。
・中高生向けの「放課後学びスペース　アシスト」や、外国人向けの「日本語教室　だんらん」などを実施している。（その他の活動については別紙を参考）
・活動に参加している大学生は、ボランティアの方とアルバイトの方がいる。基本はボランティアだが、責任を伴う活動を担当する人は、アルバイトとして活動してもらっている。

２．事業を実施していくうえでの心がけ
・人の役に立つことでボランティア側も学ぶ。何が人のために役立つのかを学生に学んでもらうことを大事にしている。
・コロナ禍で、全国でも先駆けてボランティアの日本語教室をオンラインで開催している。オンラインの活動では、大学生とシニア世代に一緒に活動をしてもらうことがある。その際、シニア世代の方には、「何が人のために役立つのかをボランティアの学生に学んでもらうことが大事」ということを意識してもらっている。
・若い人達との関わり方は常に意識している。若い人への伝え方や、若い人の考え方について、「まなびと」のＯＢやＯＧに話を聞いたりする。

３．大学生をどのように活動に巻き込んでいるか
【きっかけ、活動の考え方】
・子どもの学習支援を大学生に手伝ってもらった際、学生にお礼を伝えると、逆にお礼を言われた。そのとき、自分が子どものために必要だと思った活動が、思いもかけない人にとっても必要で、そこにお金や時間、労力をかけてもいいと思う人がいると気づいた。
・その気づきをきっかけに、若い世代の方を活動に巻き込んでいくことを意識するようになった。

自分（中山氏）が前にでるのではなく、活動をやりたいという気持ちを持った人と、課題を持っている対象の人を結び付けている。
・活動をやりたいという気持ちを持った人の気持ちが、くじけたり、折れたり、消えてしまわないように、寄り添って、必要なサポートをしていくことが自分（中山氏）の役割だと考えている。
・大学生には主体的に活動に取り組んでもらい、大学生だけでは動かせない部分や社会的な責任を事務局が負担する。大学生に、人と関わる部分をいかに純粋に楽しんでもらえるか、学んでもらえるかということに注力している。

【大学生を活動に巻き込んでいく方法】
・活動には、ボランティアに興味がある、何か楽しそうだ、とボランティアをポジティブに捉えている学生が来てくれる。
・学生が活動に参加するきっかけとしては、学校のサークルに行かなくなり、何かやることがないかと探してボランティアに参加する学生が結構いる。
・コロナ禍によって、先生や保育士を目指している学生の、子どもと接する場（学校や保育所）がなくなったことや、海外で活躍をしたいと考えている学生の、海外留学をする機会がなくなったことにより、そういった学生が活動に参加することが増えた。
・ボランティア活動に参加したいと考えている学生が見ている、ポータルサイト「アクティボ」がある。どんなボランティアがあるのかが見えると、学生は自分の関心のある活動に参加できる。
・単なるお手伝いとボランティアは違う。ボランティアは、参加する学生が、「自分じゃないとできない」と思える活動でないといけない。学生にやりがいを感じてもらう。
・過去に活動に参加してくれた大学生から聞いた話で、高校生の時にも地域活動のボランティアに参加したが、受け付けでお金を受け取るだけであり、その学生にとってはボランティアではなく、自分じゃなくてもいい、単なるお手伝いであった。
・活動に参加している学生が、周りの学生を活動に誘うことは難しい。ボランティアは自分自身がやりがいを感じて参加するものなので、周りの人も同じやりがいを感じてくれるかは確信が持てない。
・期限付きで、明確に負担が分かりやすい活動は、友人を誘いやすい。学生からは、イベントへの参加よりも、イベントのお手伝いのほうが友人を誘いやすいと聞いている。

## ４．組織体制と運営のノウハウ
・事務局が大学生スタッフを束ねて、指示、支援をする役割になる。活動のおさえどころが分かっている、任せ上手な方が事務局に必要となる。
・NPO 法人まなびとであれば、自分自身（中山氏）が若い世代と関わって活動を回してきた。
・「日本語教室　だんらん」では、過去に教室を受講していた方が事務局のスタッフになっており、自分（中山氏）の考え方などを伝えて、人材を育てている。
・スタッフの入れ替わりがある中で、技術の継承は課題だと思っている。「この活動はあなたがいなくなっても続いていく活動です。そこを目指してやっていきましょう。」ということを学生たちに繰り返し伝えている。そうすると、上の世代の学生も、下の世代の学生が、この活動をやっていき

たいと思えるようにしないといけない、ということを考えるようになってくれる。

**５．地域活動に若い世代を巻き込む方法**

・活動に参加してくれる大学生は、高齢世代との関わりが、どう自分の経験になるのかが分かる人（学び上手な人）である。そういった学生は既に動いているので、学生が活動を始める前段階で学生と地域が関わる場をつくることが必要と思う。

・学生が、ボランティアで活動に参加するのかどうかの違いは、お願いをする活動の内容による違いがあると思う。学生にとって経験を得られる活動と、単なる事務では異なってくる。学生を賃金が０円の労働力として考えてはいけない。

・学生と地域が関わる場づくりにあたって、学生にお願いをする活動は、学生が「課題解決のためにどうしたらいいのか」を考える必要があるレベルでないといけない。

（例えば、高齢世代の方にスマホの使い方を教えるというのは、何をするかを簡単に推測できてしまう。そういったことでは、学生はあまり参加しない。）

・大学でも学生を地域に出していこうということで、大学にボランティアコーディネーターと呼ばれる方がいる。受け皿となる地域団体にも、その学生にあった適切な役割の分担ができる、若い世代との接し方が分かるコーディネーターのような人（世代間をつなぐ人）が必要となる。

## ２．東灘こどもカフェ　代表　中村　保祐氏（あたふたクッキング代表　川崎氏　他２名）

**【日時】**令和３年 10 月 22 日　11:00～12:00

**【場所】**東灘こどもカフェ

**【ヒアリング主旨】**

・東灘こどもカフェについて

・若い世代を活動に巻き込む方法について

【要旨】

**１．東灘こどもカフェについて**

・①「こども」の夢・目標をサポートする、②「食」と学習・文化活動・講座を通じて、子どもを中心に世代を超えてその交流親睦する機会を提供することで、それぞれのペースと立場に合わせた夢と出番を応援することを目的とするボランティアグループ。2011 年 4 月から活動。

＜みんなの居場所・木洩童（こもれど）＞

・子どもから大人までだれもが気軽に立ち寄れる地域の集いの場。大きなテーブルを一つ配置しており、声の聞こえる距離感で互いに親しみやすい雰囲気が生まれ、また、困りごとにも耳を傾けやすい。

＜あたふたクッキング＞

・高齢者や子どもたちに手作りの昼食や弁当を届けている。ロコミで１人暮らしの高齢者からも依頼が来るようになった。年 363 日活動。毎日 7:30～10:30 までに、注文に応じて 60～70 食ほど作

り、配達している。
・調理方法のマニュアルなどは決めず、スタッフの好きなように作ってもらう。
・ボランティアは気持ちに余裕がないとできない。活動が持続しているのは、調理が好きな人が集まって、楽しみながら活動しているから。
・あたふたクッキングのスタッフは計 40 人ほどで、曜日ごとにグループを分けて活動している。スタッフの多くは 70 代であり、1 時間 250 円程度の有償ボランティアである。

**２．若い世代をどのように活動に巻き込んでいるか、**

・東灘こどもカフェは多世代が自由に参加できるような場所にしており、それが 10 年以上継続している秘訣であると考えている。
・しばりのない地域の場でないと、若い人が入っていきづらい。
・自宅の 1 階を地域の交流の場にしたいという相談があり、まずはこの場所で活動している 40 代の方がいる。地域でやる気のある人をうまくつなぎ、活動を応援していくことが必要である。

**３．地域活動に若い世代を巻き込む方法**

【担い手について】
・スタッフに 70 代が多く、次世代へのローテーションがなかなかできない。バトンタッチする人材の育成について悩んでいる。
・昔は地域活動の中心は自営業者であり、時間を作りやすかった。現在は中心がサラリーマンになったので、なかなか地域活動に時間を割けない。

【集いの場について】
・地域活動を始めるうえでのハードルは、場所、資金、情報発信（人集め）。
・地域に拠点（話し合いの場）をもっと作ってほしい。地域の集いの場は、住みやすいまちづくりのための財産になる。多様な人が自由に出入りできる場づくりが必要である。
・地域の集いの場（既存の団体）をマッピングし、交流の場を設けてはどうか。
・大規模な交流施設を作るのではなく、地域密着型の小さな集いの場がたくさんある方がよい。

４．その他
・行政は地域団体との関わりはあっても、NPO や任意団体との関わりが薄いと感じる。
・住民と行政の中間に立ち、コーディネートしてくれるような組織が必要だと思うが、専任者でないと難しいように感じる。
・地域福祉センターという地域の拠点を、地域で活動している団体が使いやすくしてほしい。また、どんな風に使うのがよいか助言してくれるコーディネート役がいれば助かる。

## ３．神戸いたやどばあちゃん　代表　黒田幸子氏（つながる居場所代表長安氏　他１名同席）

**【日時】**令和３年 10 月 18 日　10:00～11:20
**【場所】**神戸いたやどばあちゃん
**【ヒアリング主旨】**
・いたやどばあちゃんの活動について
・居場所づくりや大学生との関わりの工夫について

**【要旨】**

**１．いたやどばあちゃんについて**

・築 70 年の古家を使ったレンタルスペース。味わいのある、落ち着きを感じる家屋であり、多くの方々の利用理由の一つになっている。
・2008 年頃～、母が住まいを離れるが存命中は家屋を処分しないと約束したことをきっかけに、友人や家族の協力でレンタルスペースとしての活用を開始。
・2016 年春、利用者有志により「いたやどばあちゃんを守る会」を立ち上げ。
・歌唱や手仕事の会などのグループ活動の拠点として利用されるとともに、いたやどばあちゃんとして居場所づくりにも取り組んでいる。
・2020 年より、大学生グループ「つながる居場所」によるスマホお困りごと相談会を定期的に開催。

**２．事業を実施していくうえでの心がけ**

・自分たちでできることだけ、無理せずにやりたいことをする。
・グループ利用の人も、一緒に運営している気持ちで大切に利用している（継続的に利用する場合は、鍵の開閉や支払いは自分たちで責任をもってする）。
・家の保守管理が課題であるが、耐震工事や補修については、自助努力と利用者も参加した改修費づくり活動、助成金の３本の柱で取り組んでいる。

**３．若い世代をどのように活動に巻き込んでいるか、**

【きっかけ、活動の考え方】
・2019 年より多世代で活動するグループが　学生が主導するスマホ講習会を単発的に実施
・2020 年 11 月より実施されたスマホ講習会に、KOBE 学生地域貢献スクラムとしてつながる居場所の代表になる学生が参加し、スマホ講習会の継続を志願
・兵庫県青少年本部からの補助金交付により、学生グループ「つながる居場所」を設立
・毎月 2 回、定期的にスマホお困りごと講習会を開催
・学生には教えられることも多い。
【学生の思い（長安氏）】
・祖母への思いもあり、ご高齢の方の役に立ちたい。また、この場所をみんなに知ってもらいたいと思った。楽しんできているので、大変ではない。
・大学の授業などもあり、なかなか学生に継続してきてもらうのが難しい。

・現在 4 回生であるが、就職後も、曜日を変えて継続していきたい。また、休日にすることで現役の学生も参加しやすくなるのではないかと思う。

**４．組織体制と運営のノウハウ**

・組織としてきちんとした形を作るのではなく、ゆるやかにつながっている関係づくり。
・立ち上げ当初は友人・知人の協力による勝手連のような組織であったが　徐々にグループ運営者や利用者の協力が運営に関しても得られるようになる。任意団体となったのは　高齢女性利用者の継続を望む言葉がきっかけで　グループ運営者から役員の申し出があり実現した。現在は役員 4 人、監査役 2 人。
・新規申し込み（電話やメール）があったときは、Facebook 等で調査を行い、受け入れするかどうかを団体として判断する場合がある。申込用紙にも禁止事項を記載した。
・広報については当初ポスティングにもかなり力を入れたが、口コミの力が強い。

**５．その他**

【活動で困ったときの相談先について】
・居場所サミットへの参加により CS 神戸とつながりができ、相談することも多い。しみん基金神戸が主催している講座へ参加したことも、活動を継続していくための良い転機になった。長田区社会福祉協議会は毎年見学し　実情に即した助言・協力がある。

【地域との関わりについて】
・近隣の方の利用が多いわけではなく、北区や加古川から通っている方もいる。

【今後の活動について】
・若者・男性の参加を増やしていきたい。例えば、スマホ相談会のように特定のテーマがあることで、男性は参加しやすくなるのではないかと考えている。

**４．ふれあいのまちづくり協議会の事例**

**（１）北五葉ふれあいのまちづくり協議会**

①北五葉ふれあいのまちづくり協議会について
・北五葉小学校区内の福祉関係団体、公共団体、地域有志（ふれまち経験者等）などで構成。主な活動としては、高齢者食事会、敬老のお祝い、災害時要援護者支援などの地域福祉活動
・小学校の中にセンターがあることもあり、こども向けの行事も多い。夏祭りで開催している、こどもゲーム大会について、企画立案からこどもにやってもらうなどしていたが、コロナ禍になってからは企画立案をふれまちでしている。昨年は中止。

②若い世代をどのように活動に巻き込んでいるか
・十数年前から、高齢者・一人暮らしの方向けの料理教室を開催している。そこに参加された方

に、今度は料理を提供していただく側として食事会の手伝いをしていただいている。その中から、ふれまちの役員になった方もいる。

・手伝いをしていただける方は全部で 40 名以上いた。食事会は月に 1 度の開催で、毎回 7～8 人ずつ手伝いに来いていただいていた。しかし、コロナの影響で開催も難しく、手伝いの方も減ってきてしまっている。

・10 数年前から、当時の役員がこういった仕組みを考え、続けてきたことが現在につながっている。

③地域活動に若い世代を巻き込む工夫

・上記料理教室の他、PTA の関係者による声掛けなどでふれまちへの参加を募っている。

・今のふれまち協議会の活動が活発なのは、先輩方のおかげだと感じている。

・昔は、30 代～40 代で PTA 役員をして、そこから地域活動に入られる方が多かったが、今のお母さん方は、子どもの手が離れると働きに出るので、地域活動を続けてもらうことは難しい。

・働きながら手伝ってくれる方もいるので、無理せず手伝ってもらえるポストを用意する。休みの日に広報紙を作成してもらい、メールなどでやり取りをしている。

**（２）乙木ふれあいのまちづくり協議会**

**①乙木ふれあいのまちづくり協議会について**

・役員は 14～5 人程。現在 80 代の人はおらず、概ね 60～70 代で構成されている。
PTA 本部役員の方で 30～40 代の人もいる。専業主婦ばかりではなく、パートやアルバイトを含め働いている人も多い。

・月１回、第一木曜の午前に役員会を行っているが、仕事の都合等、毎回全員が出席しているわけではない。

・役員には、なかよし学級の支援員や PTA 副会長、学校評議委員等もおり、学校や子供との距離感が近く、若い世代との情報交換ができていると思う。

・高齢者福祉だけの高齢者の既得権益維持に特化せず、若い世代との地域福祉交流を進める事業もバランスよく行っている。

**②若い世代をどのように活動に巻き込んでいるか**

・何か特別なきっかけがあるというよりは、比較的若い役員が自然と増えていった印象。

・委員長、副委員長は雑用係として行動しており、率先垂範が大事。

・若い世代に、あれしてくれ・これしてくれ・こうしなさいとは言わないようにしている。

・色んな人を活動に積極的にまきこんでいくことが大切だと考えている。ただし無理強いはしない。

・日頃から地域のことを考えている人が多く、構成団体は総じて、「やらされている感」があまりない。好きなように動いてもらってよいと考えている（信頼度が高い）。

・主任児童委員が PTA の母親世代と子どもが幼稚園・保育所の頃から交流することがある。たとえ子育てに余裕が出てきたら、垂水区保健福祉部が実施しているフレンドママ（子育てアドバイザー）の養成講座などの情報を伝え、楽しく一緒に実践することに巻き込む。

・出産後に地域へ戻ってくる人も多く、子育てに疲れたお母さんたちには主任児童委員が声をか

けるようにしている。すると、助けられた人が今度は自分も助ける側に回ろうと、自然と積極的に関わるようになる。

・子どもたちがいずれ地元を離れるにしても、地域にいる間は顔が見える関係を築きたいと考えている。

・地域の小中学生とは、積極的に関わっている。子どもだけでなく、親にも地域の活動を理解してもらえるので、小中学生経由で活動の幅が広がりうる。

・学校教育の一環として地域活動に学校単位で参加し、保護者や地域の人の指導の下、できれば地域との交流の延長として、実践している。

**③地域活動に若い世代を巻き込む工夫**

・仕事をしながらでも参加できるような仕組みが特にあるわけではないが、地域活動への参加は無理強いしない等、個々のライフスタイルは尊重している。また、働いている人に些細な通常業務は頼まず、どうしても必要な時に声をかけるようにしている。

・ひとつの形を求めるのではなく、個々別々に、柔軟に対応することが大切。

・若い世代の方の意見を聞き、意見を尊重して若い世代が一緒に楽しめることが大事ですね。

**（３）成徳ふれあいのまちづくり協議会**

①成徳ふれあいのまちづくり協議会について

・構成団体は自治会を主として、婦人会、PTA、父親会、民生委員、老人会など。PTA、父親会は、OB がふれまち協に残っている。

・ふれあい喫茶などの福祉活動の他、成徳マルシェや成徳まつり等の大きなイベントや、子供向けの夏休み早朝テニス教室を実施。

②若い世代をどのように活動に巻き込んでいるか

・地域福祉センターの立地は大事（学校が近く、連携が取りやすい）
→学校側からも交流を持とうと働きかけてくる。
例）ふれまち役員が、ゲストティーチャーとして、小学生に対し地域活動の紹介をする等講師役になる。

・会議に来られない人は ZOOM で参加したり、LINE で会議内容を共有したりしている。ただし、全てのふれまち協で推進できるかというと、そうではないと思う。これから ICT ツールの利用は増えるだろうが、今は難しい時期だと思う。

・イベントの単発参加はあるが、担い手の確保までは難しい。

・PTA の意識も変わってきているので、何らかの方法で活動協力者をつなぎとめたい。

③地域活動に若い世代を巻き込む工夫

・父親会

震災後、PTA の下部組織として自主的に発足した団体。当時は、全国的に母親部会を作る傾向があったが、神戸では PTA に母親が参加する状態だったため、「地域の父親にもっと出てきてもら

おう」という考えで募集したところ、40 人以上が参加。
昔から地域にいたわけでない人も含めて、つながりの場になった。（むしろ転入者の方が地域とのつながりを求めていたのでは。地域的に新しい若い住民が増加してきた。）
よく「長く活動している人が元気だから若い人が入りにくいのでは」と言われるが、父親会の場合、OB は一緒に活動しながら、道筋を立ててリードしていく役割で、企画・実働は現役世代。
現在では、古くからの住民も転入者も限定なく参加しており、約 130 人で構成されている。会長は１年交代で、構成員は現役世代がほとんど。月１回定例会を開催。
父親会には、市職員も PTA も積極的に参加している様子。ふれまちの行事にも積極的に参加している。

・まち・むら交流推進部
県の補助金制度がきっかけでスタートした事業で、丹波篠山市で米と豆を地域で育てている。
田植えや稲刈りは、地域の子どもたちと一緒に行って農業体験をしている。
若い人がたくさん参加してくれていて、高齢者の主要メンバーがフォローに回っている。

外国人・子ども・学生に、「いばしょ」と「まなび」を。

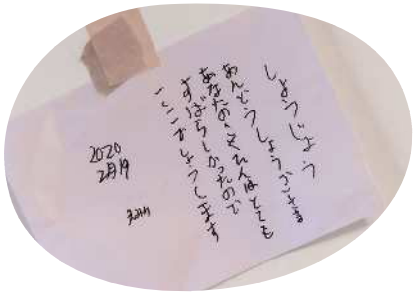
# まなびとのこと

MANABI TO
CONCEPT
BOOK

Manabi to
認定特定非営利活動法人 まなびと

## いろんなカタチの、
## じぶんらしい「まなび」を見つけよう！

まなびとは、その人らしい関わり方を発見する、
学校の外にある「まなび」の場です。



## Manabi to の取り組み


外国人のまなびのカタチ「日本語教室だんらん」…… P.2～5
放課後の過ごし方のカタチ「民間学童保育施設 北野くん家」 P.6～7
子どもたちの居場所のカタチ「神戸こども探険隊」…… P.8
中高生のまなびのカタチ「放課後学びスペース アシスト」…… P.9
地域との関わり方のカタチ「ちいき食堂」 …… P.10～11
まなびとについて …… P.12～13
メンバー募集と寄付について …… P.14～15

# 日本語教室 だんらん

DANRAN - Japanese class for international residents -

「だんらん」は、日本で暮らす外国人をサポートするための日本語教室です。「日本で働きたい」「日本人の友だちが欲しい」など、一人ひとりの目的に合わせた日本語の授業を提供しています。より多くの外国人の方に「日本に来てよかった！」と思っていただけるように、ただ授業をするだけではなく、履歴書の内容を一緒に考えたり、日本人と交流できるイベントも開催しています。

We, "Danran", want to support you during your stay in Japan to provide you with a safe space where you can practice Japanese. We provide a classroom to support each of your individual needs whether that is wanting to work in Japan or making Japanese friends. We can help you from creating your resume to settling comfortably in Japan. This is a space where you can build community through not only attending events but by being directly involved in the planning process.

manabitomanabi.com/project-danran





MEMBER'S VOICE

## パンディ・マヤンクさん / Mayank Pandy

マヤンクさんの関わり方　だんらん　北野くん家　ちいき食堂

僕は2015年8月にインド北部（ネパールの近く）から来日し、FACEBOOKで知ったイベントをきっかけに「だんらん」に出会いました。現在は、神戸の人材派遣会社で働いています。日本では外国人が企業で働くには日本語検定2級以上の資格が必要です。そのため、日本で就職したいと思っている外国人にとって日本語を学ぶ環境は重要で、僕はKICC（神戸国際コミュニティーセンター）の日本語教室に週1日と、だんらんに週3日通って日本語を身に付けました。だんらんでは、教科書には載ってないような「実際の暮らしで使う日本語」を、若い世代の日本人から自分のペースで学べます。また、学びながら同世代の日本人・外国人の友だちを作れる場所でもあるので、実践的な会話を練習できる場所を探していたり、神戸で友だちを作りたい外国人にはとてもおすすめです！

I came to Japan from Northern India (near Nepal) in August 2015, and came across "Danran" as a result of an event I learned from Facebook. Currently, I work for a temporary staffing company in Kobe. In Japan, foreigners need to have a Japanese Language Proficiency Test Level 2 or higher to work for a company. For that reason, the study environment is important for foreigners who want to work in Japan. Due to this, I attend a Japanese classroom at KICC (Kobe International Community Center) once a week, and I go to "Danran" three days a week. At "Danran", I discovered you can learn "Japanese used in real life" that is not described in textbooks from younger generations of Japanese at your own pace. Also, it is a place where you can make friends of Japanese nationals and foreigners of the same generation whilst learning, so it is highly recommended for foreigners who are looking for places to practice practical conversations and who want to make friends in Kobe.

WHY DO THIS ??

## 外国人と日本人が互いに学び合える
## 一人ひとりが生きやすい社会につながる

日本には世界中からやってきた多くの外国人が住んでいて、神戸市中央区では人口の約11%*が外国人です。けれども、地域社会の中では外国人の方と地域の人との交流はまだまだ盛んだとは言えません。彼ら彼女らが日本語を学び地域社会とつながることは、日本人が他国から学び、より良い社会をつくるチャンスにも繋がると考えています。「だんらん」は、外国人と日本人の交流が生まれる日本語教室であり、多様な人が関わり合いながらも一人ひとりが安心し、その人らしく生きられる地域社会づくりのカタチのひとつです。

*神戸市HP データこうべ月別各種統計表（令和2年3月号）より

MEMBER'S VOICE

社会人

### 鳥越 友月さん

鳥越さんの関わり方 だんらん

大学の留学プログラムで海外に長期滞在した際に、現地の人と友だちになれてとてもうれしかったので、日本で暮らす外国人にも「何かしたい」という気持ちで「まなびと」の取り組みに参加しました。学生ボランティアスタッフを卒業して社会人になってからも、ホームページに届いたお問い合わせに対応したり、ボランティア希望の方への面接などをお手伝いしています。こういった「続く関係」がまなびとの魅力で、教える人・教えられる人に分かれる教室・学校とは違い、友だちのような距離感でコミュニティーをつくれる場所です。実際に、デンマークに帰国した人や、東京で就職した人とも今でも連絡を取り合っています。アルバイトや単発のボランティアでは手に入れられない「長く続く関係」を築きたい人は、ぜひまなびとへ！

# 民間学童保育施設 北野くん家

民間学童保育施設「北野くん家」は、神戸三宮エリアで行っている学童保育事業です。子どもたち一人ひとりがその子らしく安心して過ごせるように、少人数制で保育を行っています。子どもたちが自分で自分のやりたいことを決めて、自分なりに試行錯誤しながら過ごす時間を大切にしています。

WHY DO THIS ??

## 子どもたちが自分主体で過ごせる時間を大切に

放課後は、子どもたちにとって大切な自分の時間です。誰かに言われた通りに過ごすのではなく、子どもたち自身が何をして過ごすかを決めることで、その子らしさが育ちます。そして、同じ空間にいる色んな人の「やりたい」に巻き込まれることで、子どもたちの世界は自然と広がっていきます。「北野くん家」は、子どもたちが自分らしく世界に出会える、放課後時間の過ごし方のカタチのひとつです。

manabitomanabi.com/project-kitano





## 子どもたちの過ごし方

**ふだん**

学校が終わり子どもたちがやってくると、まずは宿題。宿題が終わったら、読書・おもちゃ遊び・モノづくり・ごっこ遊び・外遊びなどから、その日したいことを楽しみます。勉強と遊びそれぞれに、子どもたちを見守るメンバーを配置しています。

**お休み**

長期休みには遠出をして、水族館やプールに行くことも。なるべく、子どもたちが「したい！」と言ったことを一緒にするように心がけながら、スタッフの提案で、お菓子作りや実験・工作などを楽しむ日もあります。

MEMBER'S VOICE

大学生

### 米谷 桃奈さん

米谷さんの関わり方

北野くん家　探険隊　アシスト

1回生から「まなびと」の取り組みに参加しはじめ、今は北野くん家・探険隊・アシストで週1日ずつボランティアとしてお手伝いをしています。福祉系専攻で子どもの貧困に関心があり、「大学生中心で場づくりをしたい」と思っている時にまなびとを知りました。振り返ると、子どもたちと一緒に自分もたくさん成長できたと思います。同級生や先輩、代表の中山さんと意見を出し合って、子どもたち一人ひとりに合った支援方法を考えたり、イベントやプロジェクトを学生中心で考え・動かしていくことはとても良い経験になりました。「何かしたい、でも何をしたいか分からない」そんな大学生は、まなびとでその「何か」を見つけられると思います！

神戸 こども探険隊

# 神戸こども探険隊

もっと色んな人と遊びたい。そんな神戸三宮エリアの子どもたちが、決まった時間に基地に集まって思い切り遊んでいます。子どもたちだけではなく、高校生や大学生、留学生や地域の方も集まり、ここに来たらみんなに会える。そんな居場所を創っています。

WHY DO THIS ??

## 色んな人と出会える
## みんなと一緒に遊べる

地域には、色んな人たちがいます。けれど、学校と家を往復するだけでは、その人たちとの接点を持つことはできません。誰のことも知らず、自分のことも知ってもらえないと、子どもたちは自分の中にある多様な可能性に気づけない「とても狭い世界」の中で育つことになります。そうならないためには、子どもたちが色んな人と関わり合い、世界を広げられる場所が必要です。「神戸こども探険隊」は子どもたちが安心して人と関われる、そんな放課後のひとつのカタチを目指しています。

放課後学びスペース アシスト

# 放課後学びスペース　アシスト

学校の勉強をする意味が見い出せずにいる子や、「勉強しないと！」と思っていても実行できない子のために、1対1の対話を通じてその子なりの目標を一緒に立てるのが「アシスト」の役割です。子どもたちが、ひとりの人間として話を聴いてもらえることで、自分なりの目標を設定でき、それを少しずつ達成していくことで、自分の力で人生を切り開く力を身に付けていける。そんな場を創ろうとしています。

WHY DO THIS ??

## 自分の課題に向き合い、乗り越えるために

教師一人に対して多数の生徒という、教育の効率を重視した学校教育機関の仕組みでは、自分の課題と向き合う力の強い子どもはどんどん力をつけていきます。ですが、何らかの理由で自分の課題と向き合うことが難しい子どもは、周りから求められる結果を出せずに自己肯定感が下がってしまい、より自分の課題と向き合えなくなってしまうという悪循環が生まれます。その悪循環から抜け出すためには、まずはひとりの人間として認めてもらい、1対1の関係性の中で目標を自分で設定し、それを達成していくことで自己肯定感を高めていかなくてはなりません。学校の勉強に限らずにその子なりのチャレンジにとことん向き合う。「アシスト」は、そんな学習支援のひとつのカタチを創ろうとしています。

## ちいき食堂

まなびとの活動に参加している人たちや、その活動を支えてくださっている地域の人が一緒にご飯を食べる場所です。ご飯を作る人も、参加する人も毎回違う顔ぶれですが、何気ない会話を通じて、人と関わることの楽しさを一緒に味わえる、そんな空間を創ろうとしています。

WHY DO THIS ??

### 食を重ねることから始まる相互理解

ごはんを一緒に食べる、というのは生活を重ねるということです。地域に住む人たちは、それぞれに違う生活背景や文化的背景を持っています。しかし、食を通じて異なる背景を少しずつ重ね合わせると、言葉にはならなくても、お互いのことを理解し、受け入れることにつながると考えています。「ちいき食堂」は、お互いをよく知ることで自分のやりたいこと・役割がはっきり見えてくる、そんな地域拠点のカタチのひとつです。





## ちいき食堂以外のカタチ

餅つき大会

流しそうめん会

MEMBER'S VOICE

社会人

### 佐藤 清子さん

佐藤さんの関わり方 だんらん

50代半ばで大学院に通いはじめ、入学前に1年ほど国際交流基金で通信制日本語ボランティアをしていました。その経験から「大学でもボランティアをしたい」と思い、学内にあった冊子を通じて出会ったのが「まなびと」です。学生中心の取り組みということで、はじめは勇気がいりました(笑)。私の場合は、家事をしながらなので月2回程度の参加ですが、大学と同じように特に年齢を気にせずフラットに参加できています。大学生メンバーを見ていて、学校の枠を超えた交流のあるまなびとに関わることは、これから生きていく上でとても大切な経験になるのではないかと強く感じています。ボランティアは自分の「楽しみ」のためにしていいのではないでしょうか。人に灯りをともせば、自分の周りも明るくなりますからね。

# 代表メッセージ

## 自分がやりたいことを見つけるまでの、よりよい「待ち時間」を提供したい。

最初は商業施設のベンチから始まった「まなびと」の活動も、現在は北野エリアに拠点を構え、腰を据えて複数の活動に取り組めるようになりました。これはひとえに、これまで出会ったたくさんの方々、まなびとの活動に共感し、参加してくださったみなさまのおかげです。拠点を持つようになり、これまで以上に「場」の重要性を感じはじめました。まなびとの活動に参加してくれる人たちは常に入れ替わります。しかし、場には参加者の気持ちや信念が少しずつ蓄積され受け継がれていきます。また、そういった場には同じ想いを持つ人が集まり、コミュニティーが形成されていきます。いままさに育まれつつあるまなびとコミュニティーの特徴は、外国人・子ども・学生・社会人といった文化・年齢・性別の多様性です。加えて、多くのメンバーは居場所を求めてやってきます。自分のペースで日本語を勉強したい外国人、日本人の友達がほしい外国人、自分のペースで勉強したり遊びたい子ども、自分にできることを見つけたい学生・社会人。この多様性と居場所の共存が、今後のまなびとをカタチづくる重要な要素になると考えています。この多様性と居場所の共存が、今後のまなびとをカタチづくる重要な要素になると考えています。多様な価値観を知ることは、自分を認めることに繋がります。自分を認められさえすれば、自分なりのやりたいことが自ずと見えてきて、さらに新しい居場所を見つけることに繋がります。そのためのに必要な時間と機会を提供するのが、まなびとの役割だと最近は感じ始めてきました。やりたいことが見つからない時は、無理やり自分を追い込んで苦しむより、向こうからやって来るまでゆっくり「待つ」ほうが、得てして効果があるものです。まなびとは、そんな「待つ」ための場所として、必要とされる存在になりたいと考えています。

**中山 迅一（なかやま ときかず）**
**/ 認定NPO法人 まなびと 理事長**

1984年（昭和59年）兵庫県神戸市生まれ。

神戸市西区月が丘小学校卒業後、私立甲陽学院中学・高等学校へ進学。
高校 卒業後は1年の浪人生活を経て、京都大学文学部へ進学。
7年の在籍期間を経て、佛教大学教育学部へ編入。

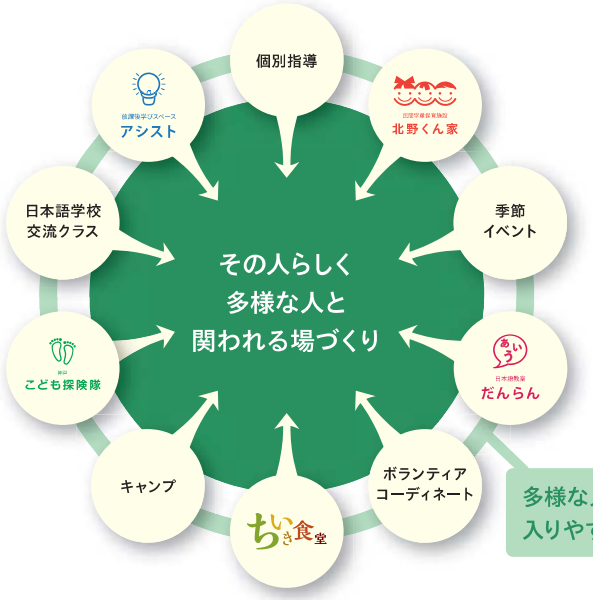
佛教大学在籍中に神戸大学を拠点とするNGO「PEPUP」の活動に参加し、
社会的活動の意義を学び、自ら活動していくことを決意。

より良い社会のための より良い活動、より良い生き方を学び続けること、
その為の自分の学びの場を作ることが第一歩だと考え、
2014年に「まなびと」を立ち上げた。





# まなびとの活動イメージ




多様な人がそれぞれに
入りやすい入り口づくり

「まなびと」は、5つの主な事業とそれぞれを横断的に繋ぐイベント・取り組みを行い、関わる人がその人に合った居場所を見つけ、主体的にまなべるカタチを目指しています。実際に、「日本語教室 だんらん」の外国人の生徒さんが、「神戸 こども探険隊」では子どもたちを見守り、「ちいき食堂」で地域のみなさんと一緒に食卓を囲むなど、入り口はひとつでも、そこからから自発的に関わり方を増やしてくれる生徒さんや、学生・社会人メンバーが多くいます。私たちは、これからも「居場所」「まなび」を探している多様な人との接点を増やし、まなびという人が集まる「場」を通して、多様な人がその人らしく暮らせる地域社会づくりに貢献していきたいと考えています。

## まなびとのメンバー募集

「まなびと」では、一緒に活動してくださるメンバーを募集しています。「ボランティアに興味がある！」「社会的活動をしてみたい！」という方も、「自分 に何ができるか分からない」「何がしたいか分からない」という方も、一 緒に学びながら活動してみませんか？まなびとは、「自ら学び、共に学び合い、豊かな社会をつくる」という理念の下、生まれてきた環境やその時々の境遇によらず、どんな人でも当たり前に「学ぶ気持ち」を持てる社会を目指して、地域の学び場づくりに取り組んでいます。ひと言で「学び」と言っても、単に勉強を指すのではなく、何かやってみたいことに挑戦していく「生きるための学び」を大切にしています。そして、そういった挑戦する気持ちを育てるために、まず一人ひとりが受け入れられる居場所を作ることから始めています。所属するメンバーは、自分の「やってみたい」を活かして、仲間と一緒に協力しながら活動しています。まなびとでは、自分なりの「居場所」を得て、その中で「やってみたいこと」にチャレンジしていくことで、誰かの「学び」に貢献できます。ぜひ、一度覗きに来てみてください。

## 活動参加までの3ステップ

**1.コンタクト**
下記メンバー募集用の問い合わせフォームに必要事項を入力しお問い合わせください。

**2.プロジェクト見学**
見学の際に、各プロジェクトの詳細や団体概要を説明します。説明後、活動参加するプロジェクトを決定します

**3.活動参加決定**
毎週1回～から、プロジェクト単位で活動します。毎月第一日曜日には全体ミーティングにも参加して、活動をさらに充実させていきます。他、団体で企画するイベントや合宿、勉強会などもあります。

※ボランティア保険として500円(年間)をお納めください。
※入会金や年会費はかかりません。



## 寄付のお願い

「まなびと」は、市民のみなさまに支えられ、会費と寄付で運営されているNPOです。まなびとでは会員制度をとっており、活動へのご協力をお願いいたしております。

## 会費及び、寄付の使途について

お寄せ頂いた寄付金は、教室やイベントの運営、事務局内での諸経費等、団体内の活動においてのみ使用させていただきます。また、寄付金を含めた活動費および事業内容の詳細（活動計算書・事業報告書）を、WEBサイト内「まなびとについて」のページにて公開しています。

## 会員の種類

・正会員　6,000円（一カ年度）
・賛助会員　任意（一カ年度　一口1,000円）
・寄付　任意

## 寄付金の決済方法

「カード決済」と「ゆうちょ」へのお振込みにて受け付けております。

ゆうちょからお振込みの場合：口座番号　00980-2-234621
他行等からのお振込みの場合：
ゆうちょ銀行　店名 四三八 (ヨンサンハチ)
店番 438　預金種目 普通預金　口座番号 8933257
口座名称 特定非営利活動法人まなびと
※恐縮ですが振込手数料は振込者様のご負担とさせて頂きます。

## オンラインの決済方法はこちら

# まなびとのあゆみ

| | |
|---|---|
| 2013年9月1日 | 学際団体IROHA 設立 |
| 2014年1月10日 | 放課後支援教室アシスト始動 妙法寺校開校 |
| 2014年1月22日 | 任意団体 まなびと設立 (学際団体IROHAは学際IROHAプロジェクトに変更)、ビッグイシュー同好会立ち上げ |
| 2014年4月 | 日本語教室だんらん立ち上げ |
| 2014年6月 | 放課後学習支援教室アシスト 甲子園校開校 |
| 2014年7月 | 放課後学習支援教室アシスト 苦楽園校開校 |
| 2014年12月 | 特定非営利活動法人まなびととして法人格取得 |
| 2014年12月 | 放課後学習支援教室アシスト 摩耶校開校 |
| 2015年3月 | 放課後学習支援教室アシスト 苦楽園校閉校 |
| 2015年4月 | 放課後学習支援教室アシストを放課後学びスペースアシストに改名 |
| 2015年7月 | 放課後学びスペースアシスト 妙法寺校閉校 |
| 2015年10月 | 放課後学びスペースアシスト 学園都市校開校 |
| 2016年4月 | 放課後学びスペースアシスト 六甲校開校 |
| 2016年8月 | 神戸こども探険隊 始動 |
| 2017年3月 | 放課後学びスペースアシスト 摩耶校閉校 |
| 2017年7月 | 民間学童保育施設 北野くん家 開所 |
| 2017年8月 | 特例認定 取得 |
| 2018年4月 | まなびと北野基地 開所 |
| 2019年1月 | 日本語教室だんらん ボランティア部発足 |
| 2020年3月 | 放課後学びスペースアシスト 六甲校閉校 |

**Manabi to** | 認定特定非営利活動法人 **まなびと**

mail：manabitomanabi@gmail.com

tel：080-4398-8004

manabitomanabi.com

事務所：神戸市中央区北野町4丁目3-11

事業所：神戸市中央区山本通2丁目3-12